



2000年6月30日

日本応用心理学会ニュースレター

—コミュニケーションの広場

No.2

老いに対する負の価値観

—心理学者名簿の国際比較をしてみて—

黒田 正典

問題 最近、千葉 正士氏「法人類学の可能性」(国土館法第31号、1999年12月)の寄贈を受けたが、その中で氏は「老年化制度」を提唱し、そして近代社会には「老年は近代の忘れ物いや意図した廃棄物だ」という思想が明白に窺われる。」として、この制度の用意を社会・法律がなすべきことを説く。これを読んで、私も類似の問題を感じていたことを思い出した。私は日本心理学会の理事会に、会員の生年月日の掲載をたびたび要請したが実現せず、その経過のみがニュースレター第四号(1992.7.31)に掲載された。これに先立つ5月16日の理事会で、私は学会発表論文と同形式で「心理学者の名簿：その国際的比較」という資料を提出、説明した。ここではその内容の骨子を紹介するが、日本応用心理学会の諸賢にもご配慮いただければ、ありがたい次第である。

調査項目と結果 「性別」、「生年月日」、「全6項目記述」の3範疇で、全6項目記述とは①性別、②生年月日、③学位、④現職、⑤連絡先住所、⑥専攻

領域の完備の有無である。資料は国際心理学者名簿(1985)であるが、米国のみこれに加入せず、米国心理学者名簿(1985)によった。記載国家は50か国であるが、記載完備は36か国であり、記載完備はいわゆる先進国に多く、いわゆる途上国には少ない傾向がある。(スペースの関係で、ここでは実証的に論じられないのは残念である。) なお日本については、国際心理学者名簿のなかでは完備掲載で、優等生ぶりを示している。しかし現行の国内向けの名簿では、諸学会はことごとく生年月日を敬遠している。

考察 生年月日の欠落は名簿の価値を半減させている。恩師・先輩の記念行事等の責任者になった場合まことに困る。また若い人の人事でも、卒業年次の記載だけでは役立たない。なんたることか!「科学的心理学者」たちが年齢に対して負の価値観をもつとは。

目

老いに対する負の価値観	黒田 正典	1
スクールカウンセラーレポート 福井 嗣泰	2	
私のNPO活動と心理学	今井 省吾	2
応用心理学の国際交流	福原真智子	3

次

学会賞を受賞して	深沢 伸幸	4
宮仕え心理職の愚痴話	川邊 譲	4
以下の資料を探しています		5
事務局より		6

スクールカウンセラー・レポート

福井 翠泰

1995年文部省「スクールカウンセラー活用調査委託事業」が開始された。1997年赴任県下全体で学校臨床心理士（スクールカウンセラー）の配置は385校中79校であった。

現場では、「いじめ」「不登校」「人間関係」の問題は、生徒指導、養護教員が中心になって対応されていた。

学校の中では、これらの問題をもつ生徒は、「やっかい」な存在であり、その行動は臨床的適応障害として理解されにくい状態であった。スクールカウンセラーの業務は、不登校、保健室登校、休みがちの生徒と、スクールカウンセラー室に自主的にやって来る友達関係、クラブ関係で悩んでいる生徒達の対応となつた。

介入・援助の開始

重度群（親・子・教師とも行動を起すことができない）への対応は、親とスクールカウンセラーとの話し合いの勧めを実施した。担任とは、登校刺激とならない存在承認を与えるコミュニケーション・トレーニングを実施した。**中度群**（登校できるがクラスに入れないと）生徒への対応は、ラポールとアセスメントの実施、その後心理療法の基本プログラム設定した。可能な場合は親のカウンセリングを開始した。担任とは、重度群と同じ。**軽度群**（学校生活は辛うじてできるが人間関係が上手くいかない）の生徒への対応は、アセスメン

トとアサーショントレーニングを実施した。

アセスメント（DSM 4、心理テスト）

アセスメントは下記対応区分の明確化のため実施した。①医療機関・外部相談機関ヘルファーする。②スクールカウンセラーが対応する。③担任・養護教員が対応する。

心理テストで導入しやすく思われたものは、中学生用 YG 性格検査、HTPP、バウムテスト、ソシオメトリックテストであった。

心理療法（認知・行動・関係の変容を目的に実施したもの）

カウンセリング（積極的傾聴法、認知療法）

・行動療法（リラクセーション法、系統的脱感作法、自律訓練法、主張訓練法、オペラント法 モデリング法）・家族療法（空想とイメージに関する技法、ソシオメトリックな技法、行動変容の課題技法、システムに働きかける技法）・ロールプレー・催眠療法が有効的技法であった。

今後に残された問題

①学習遅滞を改善するために一般学級と養護学級の間に適応障害学級（仮称）が必要と考えられるが殆どの学校にそのシステムがない。②適応障害・精神障害に対応する家族の知識不足と初期対応の誤りの改善。③精神医療、児童相談、教育相談などの諸機関との連携。④問題生徒への初期対応に関する校長・教頭・生徒指導主任・担任への高い動機付けが必要と考える。このように学校現場では解決しなくてはならない問題が山積みしているのが現状である。 （江戸川女子短期大学）

私のNPO活動と心理学

今井 省吾

私は都立大35年、明星大12年、心理学の仕事（知覚と環境心理）を続け、2年前にフリー、いま、ボランティア活動中です。私達の活動は昨年10月、都庁から特定非営利活動法人アビィフィールド日本協会として認証されました。この法人の目的は「一人暮らしで自立しているが、さびしく不安な高齢者のためのファミリーサイズのグループピング、要するに要介護にならない住環境をつくること」

です。英国アビィフィールド協会は、この活動に45年の豊富な経験を持ち、現在約1000軒のハウスが加盟国にあります。昨年、NPO日本協会は13番目の加盟国となり、国際会議で日本の現状を発表し、ハウスつくりのノウハウを学びながら、日本の実情にあったハウスを目指しています。

活動の実例を少し述べますと、昨年4月、メンバーの2名がロンドン近郊のハウス数軒に短期間泊まり込み、フィールドワークをして、ハウス運営の心を知る貴重な体験をしました。11月には、老後は「こんなハウスに住みたい」

というテーマのセミナーで、参加者全員のバズセッション討議の結果、参加者はハウスの建物のハード面よりも、居住者や支援コンサルタントなどの人間関係のソフト面に強い関心のあることがわかりました。

私は実践活動の中で、心理の仕事の発見と、開拓を考えています。具体的に言えば、ハウスに体験入居、居住者のプライバシーと人づきあい、ハウスマザーやハウスキーパーによる心のケアの質と研修、地域コミュニティとの交流、ハウスの人間工学的デザインなどは、社会、臨床、健康、教育、環境心理学の交差する領域です。さらに私達が実験中の心身

のリハビリを兼ねた高齢者のための手作り遊具では、拡大トランプ、カルタや生活の組み合わせ絵カードの手になじみ易い大きさや、硬さの決定、布製の人形動物の肌触りやかたちの考案などは応用実験心理学とも関連します。

学会の会員皆様のご支援を頂ければ幸いです。

お問い合わせは
NPOアビィフィールド日本協会(正会員、賛助会員を募集中)
〒152-0002 東京都目黒区目黒本町1-9-2
Tel&Fax03-3714-8661

(応用心理士 文博)

応用心理学の国際交流

福原 真智子

近年学問の世界における国際化がますます盛んである。情報通信はそれを促す強力な手段であろう。応用心理学の分野でも例にもれない。ちなみに私が関係している国際応用心理学会(IAAP)ではスペインの事務局からネットで全理事へのメッセージが発信される。また各理事からのメッセージも事務局を介して流される。したがってさしあたっては自分に関係のないような特定の理事間のコミュニケーションも一目でわかる。これは当事者同士の迅速なコミュニケーションという以外にもメリットがある。それは忠実にそれらを追跡することによってそれぞれの理事のものいいや背景に触れることが出来る。一見ビジネスライクなコミュニケーションにも人間らしさを感じることが出来る。これは組織運営の雰囲気や流れをあるがままに理解し、自分が発言する折りにも役立つよう思う。私はいまさらながらこのようなシステムの利便性や影響に感心している。研究等の討論においても、このような形のものが要求されるのかもしれない。学問の国際化とはなにか、“国際交流はいかにして”といった問題が取り上げられて久しいが、それはやはり“人と人の心のふれあい”が基盤にあってのものだと痛感する。

ところで先述の国際応用心理学大会(第25

回)が2002年(7月7日~12日)にシンガポールで開催される予定である。四年毎に開催されるこの大会が京都(1990年)で開催されたことは記憶に新しい。当該学会は世界最初の国際レベルの心理学会であり、現在90ヶ国より2000名が参加している。心理学の発展を目標に14の部会からなり、それぞれ幅広く活動を続けている。部会への重複参加が可能であるが、現在のところ会員数が比較的多い部会は organizational psychology, psychology of assessment & evaluation, traffic & transportation psychology, educational, instructional and school psychology, と続く。近年は臨床心理、とくに健康心理部会への参加が急速に増えつつある。関連する国際心理学会関係の諸学会を傘下に、これらと協力関係を保っている。したがってこれは応用心理といえども基礎から応用まで、一致して“役立つ心理学”を模索する。今夏スウェーデンで開催予定(7月23日~28日)の国際心理学会、IUPsy(唯一の団体加入学会)とも連携をとりあい、とくに第三世界のサイコロジストのためのトレーニング組織(ARTS)の運営やヤングサイコロジストの参加を励ますなどに積極的な姿勢を展開している。ここでの日本の役割も期待されている。このような形での国際交流も大切なものと考える。[シンガポール大会へのご参加をお願いいたします] (佛教大学)

学会賞を受賞して

深沢伸幸

学会賞を受賞する栄誉を賜り感謝しますと共に、審査に関わられた関係者各位に対して厚く御礼申し上げます。

私は十数年に渡り、単に危険感受性を中心とした、運転者に対する安全教育手法の開発と実施に取り組んできただけの者ですので、受賞の報を受けました時には大変驚きました。私は心理学徒の端くれとして、心理学を通じて社会への貢献の道を模索してきました。とくに応用心理学においては、「社会が求めているもの」を的確に捉え、課題解決する必要があります。今後の心理学における更なる発展のためには、社会と共に生きる姿勢が大切で、社会の支援無しには成り立たないと考えます。

しかしながら、応用心理学が課題解決の学問を標榜すると、とかく取り違えられることもしばしばあります。それは結果オーライに墮することです。応

用心理学は、課題解決の学問であるとはいえ、心理学における基礎理論抜きには語れません。応用心理学の観点から課題を解決しても、それで研究が終了することにはなりません。課題解決を通じてある事象の関連性が明確になったならば、そこにおける関連性をもたらすメカニズムの解明研究へと進むべきです。こうして課題解決としての応用心理学研究から、基礎研究領域であるメカニズムの解明研究へと、研究を展開していくことが心理学における知見の集積に役立つと考え、ひたすら応用研究と基礎研究との融合を心掛けてきました。未だ道は半ばですが、今後も愚直にこの道を歩みつづけたいと考えております。

最後にもう一度日本応用心理学会各位に対して深甚の謝意を表し、御礼申し上げます。また、今後益々の学会の発展に微力ながら尽力することを誓いながら、筆を置かせていただきます。

(鉄道総合技術研究所)

宮仕え心理職の愚痴話

川邊 譲

このニュースレターの原稿依頼は3月末にいたしましたのですが、こここのところ2年ごとの転勤が慣例化してしまっている私にとっては最悪のタイミングでした。案の定、依頼をいただいた私は東京矯正管区所属で、原稿を書く私は東京少年鑑別所所属となっております。以前には、人事院等にも勤務していましたことがあります。色々な仕事を経験できてしまうのは、臨床一本でやりたい身には少しばかり有り難迷惑ですし、ご存知のとおり転勤や転居のストレスは小さくありません。宮仕えも楽ではありません。

しかし、宮仕えの心理職としてもっと辛いことは、心理学だけやっていては組織の中での心理職の地位を向上させたり、心理学の知見の影響力を増大させられないということです。心理学を行政の中で生かすには、誰かが犠牲となって、心理学とはあまり縁のない予算、人事、制度といった行政的課題に取り組まなければならないのです。そうした役回りは、

誰にも増して心理学や心理職に愛着を持っている人でないと担えませんから、矛盾した話です。心理学と行政の内的統合などという難しい課題には誰も手を出したくありません。

しかし、今後、心理学を実社会の中で一層生かしていくこうとするとき、これは避けて通れない問題です。勇猛果敢な若き心理職の出現を期待したいと思います。以下、ニュースレターらしく、公務員試験情報を提供します。

国家Ⅰ種試験、地方の心理職試験等のほかに、法務省が独自に平成8年から始めたA種技官採用試験があるのをご存知でしょうか。これは少年鑑別所の技官を採用するもので、29歳以下の日本国籍を有する人で、大学院修士修了（見込み）以上の方が対象となります。毎年、7月初旬から9月初旬ころに募集し、10月ころに試験（専門多肢、専門論文、面接）があります。詳しくは、各地の少年鑑別所か矯正管区にお問い合わせ下さい。

(東京鑑別所 主席専門官)

◆◆以下の資料を探しています◆◆

- 「応用心理学論文集」第1集(1953; 第11・14回大会の発表抄録集)
コピーは入手できているのですが、できましたら現物を揃えたいと考えております。
- 戦後の大会のプログラム・次第書の「現物」のうち、以下の回のものはその内容を未確認です。各大会の発表抄録集でもある程度は対応できるのですが、「公開講演」等の記録は抄録に載っていないことも考えられますので、もし可能でしたら一度確認したく存じます。

※第1～6回、13～23回、26～31回、34～36回、41回、
43回、46回、51回、54回、56回、58回、61～63回

- 学会大会時のスナップ写真など
- 「心理学講座」(中山書店)に綴じ込まれていた「月報」

◆◆ 不明点 ◆◆

- 「学会史」pp.19・25に収録している以外にも、改定会則が発せられているか
- 第15期(1953)以前の常任委員、運営委員について(「学会史」pp.36・40)
- 「学会史」p.52脚注にある先生方が、はたしていつ名誉会員に推薦(決定)されたのか
- 1977年頃までの公開シンポジウム開催状況について(「学会史」pp.77・80)
- 会員名簿がこれまでに何冊編集されたか
「学会史」p.96に挙げられた7冊以外にも発行されているのであれば、会則内容、会員数等を確認する必要があるので、お教えいただきたく存じます。
- 戦前の東京の応用心理学会で出した「応用心理学会通信」の、第2号以降の発行状況について(「学会史」p.86)
- 「進学適性検査の要領」(1952)を編集した「テスト調査部」について(「学会史」p.97)
- 各部会(犯罪、産業、教育、臨床、相談)の活動内容、メンバー、規則などについて、「学会史」に収録されている以外の記録がないか
例えば、相談部会大会の開催状況(「学会史」p.120)
- 委員会活動についても、部会同様にお願いいたします

その他、(日本)応用心理学会に関する事柄でありながら「学会史」に収録されていないことなど、お気づきの点がございましたら、是非ご教示いただきたく存じます。歴史的記述により正確、より明確であることもとめられるというのはいうまでもありませんが、より具体的に(日本)応用心理学会の活動が明かされていくほど、将来学会が目指すべき方向性も見えてくるのではないか、すなわち本大会シンポジウムの問い合わせに対し、回答の根拠を提供しうるのではないかと信じている次第でございます。このような学会史編集の趣旨をおくみどりいただければ幸いです。

日本応用心理学会学会史編集委員 村井 健祐
鈴木 裕子(補佐)

〒156-0045

世田谷区桜上水3-25-40
日本大学文理学部心理学研究室
日大研究室Tel.03-5317-9720

Fax.03-5317-9427

email(鈴木) : yukos@peacock.iis.chs.nihon-u.ac.jp

去る6月1日に名誉会員の斎藤幸一郎先生が逝去されました。つつしんで哀悼の意を表します。

－事務局より－

心理学諸学会間学連絡会という組織があることをご存じない方也有ったかと思います。この組織は心理学関連の諸学会間の情報交換を主な目的としてその役割を果たしてきましたが、このたび日本心理学会諸学会連合という新しい組織が生まれることを機会に、その主な役割を連合にゆだねることになりました。諸学会連合はとりあえずホームページでその広報活動を行っていくことになるようです。

応用理心学会も遅ればせながら、ホームページを開く準備を広報委員会で進めています。なお、8月以降に開催される学会の日程は以下のとおりです。

8月 28日(月)～30日(水)	健康心理学会第13回大会 2000アジア国際健康心理学会	早稲田大学国際会議場
8月 29日(火)～30日(水)	産業組織心理学会第16回大会	北海道工業大学
9月 2日(土)～3日(日)	日本犯罪心理学会大会	大正大学
9月 2日(土)～3日(日)	日本理論心理学会第46回大会	北海道大学文学部
9月 7日(木)～9日(土)	日本臨床心理学会第36回総会 7日ワークショップ 8・9日総会	岡山県総合福祉会館
9月 9日(土)～10日(日)	日本応用心理学会第67回大会	神戸親和女子大学
9月 9日(土)～10日(日)	日本行動分析学会第18回大会	東京学芸大学
9月 23日(土)～24日(日)	日本性格心理学会	愛知学院大学
9月 29日(金)～	日本人間性心理学会第19回大会	長崎純心大学
10月 13日(金)～15日(日)	日本臨床動作学会第8回大会 14日学会主権研修会	東洋大学文学部
10月 20日(金)～22日(日)	日本催眠医学心理学会 20日催眠技研修会 21日～第46回大会	大分・別府 「亀の井ホテル」
11月 3日(金)～4日(土)	日本社会心理学会第41回大会	関西大学
11月 6日(月)～8日(水)	日本心理学会	京都大学
12月 4日(月)～6日(水)	第38回全国学生相談研修会	東京国際フォーラム
2001年		
1月 29日(月)～30日(火)	第10回健康心理学会	国立教育会館
3月下旬(未定)	日本発達心理学会第12回大会	鳴門教育大学

訂正

第1号6頁 新名誉会員の中原弘之先生のお名前にミスプリントがありました。
お詫び上の訂正いたします。

〒187-8570 東京都小平市小川町1-830
白梅学園短期大学 心理学科
日本応用心理学会広報委員会
浮谷秀一・神作博・林潔